

親鸞さまの

【本文】

度衆 どしゅじょうしん 生心 せいしん といふことは

みだちがんに えこう 弥陀智願の回向なり

えこう しんぎょう 回向の信 樂うるひとは

だいはつねはん えこう 大 般涅槃をさとるなり

【意識】

全ての人を極樂へと往生させたい、という
阿弥陀様の願いの心があります。

その願いの心は、自他を別々に見ることを
せず、自他を一体に見る智慧に基づいたも
ので、その心は私たちに今、届けられていま
す。

この阿弥陀様の心が私に届いて信心(素直
に受け取る心)となるのです。この信心を
頂いた人は、

極樂にて仏様に成るのです。

【私の味わい】

「ヤマアラシのジレンマ」というお話の中で、体を鋭い針で覆っているヤマアラシは、外敵から身を守る一方、親しい者をも遠ざけるといふ矛盾を抱えていると言われます。

人も煩惱という無数の針を身にまもっています。自分と他人をまず分けて、自分を何より第一に考えつつ、時に自分の都合で人を傷つけたりします。一方、その針は一心同体ほどに思う身近な者でさえ、自分本位余つてに遠ざけることもあります。人と人とは、「親しき中にも礼儀あり」の言葉その通り、永遠に一体に成れない、成らない者同士なのかもしれません。

しかし、親鸞様は仰るのです。阿弥陀様は生きとし生ける者を他人のように遠ざけたりはしません。むしろ全てを我が子にし、慈しみを注がれるお方であると。一心同体の言葉そのままに、我が子を慈しむ親である阿弥陀様はこのヤマアラシたる自分を「心配下さっている。成仏できずに迷ったままで人生を終えるこの私を。針を持つていないお方だからこそ、私と一体になって同じように苦しんで、同じように悲しんで、或いは微笑んで、喜んで下さるのです。」

針を抜いたヤマアラシに成れとはおっしゃいません。無数の針、そのままではよいとおっしゃいます。しかし、姿形はそのままでも、阿弥陀様を知らせて頂く前と後では大きな違いがあります。それは、仏様の仰せを素直に聞いて(信心)、仏様を身近に感じつつ喜怒哀楽し、成仏できるハリネズミに成ったという大きな一点です。南無阿弥陀仏。(悠水)